＜ 沿岸漁業 ＞

茨城県の沿岸域は、寒流暖流両方の魚類が来遊するとともに、北部の岩礁域には磯魚が、南部の砂浜域（さひんいき）には二枚貝が生息するなど、さまざまな水産資源に恵まれています。

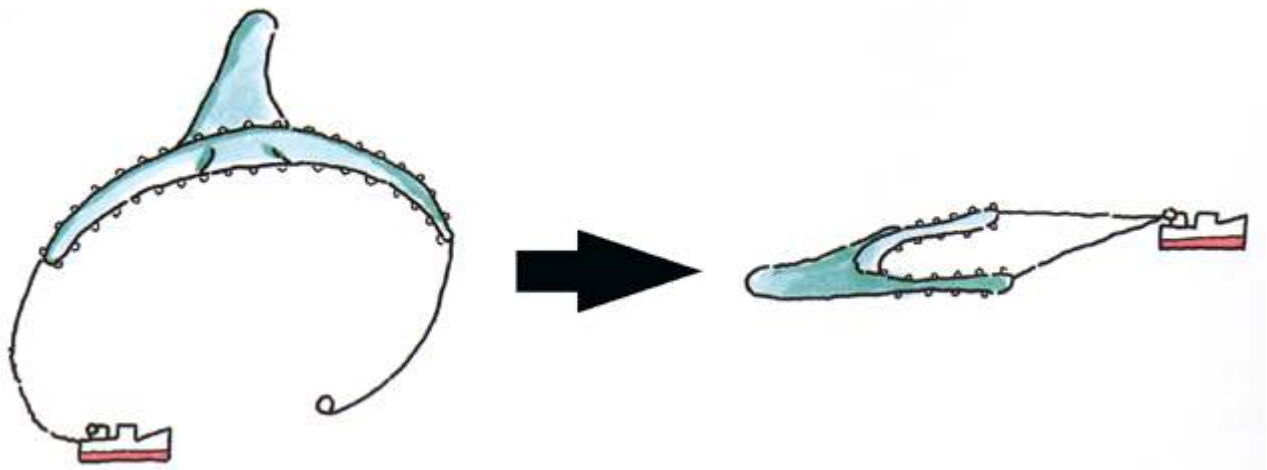
本県の沿岸漁業は、これらの資源を利用するために、いろいろな漁業が発達しました。漁業者は目的の魚に合わせて漁業の種類を切り替え、操業しています。普通は２，３人で操業しますが、１人で操業できる漁業もあります。

船びき網漁業

本県の沿岸漁業を代表する漁業で、主にシラス・シラウオ・コウナゴ・オキアミを漁獲しています。魚群探知機を使って魚の群れを探し、群れを取り囲むように船を走らせ、船尾から曳き網→袖網→袋網の順に送り出していきます。すべて送り出したところで、最初に投げ入れた曳き網の先を取り上げ、丸く広がった網が帯状になるまで船を走らせ、網の「魚取り部」と呼ばれる袋網に魚を追い込み、漁獲します。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
シラス・シラウオ				○	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○
コウナゴ		○	◎	◎	○							
オキアミ			○	◎	◎	○						

◎ 盛漁期　○ 漁期



底びき網漁業

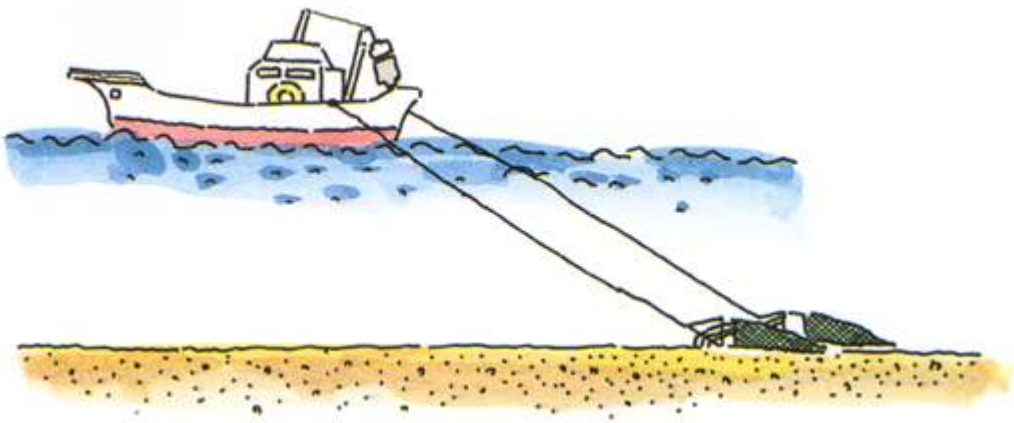
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○

　袖網の先端に開口板を取り付け、水の抵抗を利用して網が広がるように設計された漁具を使う漁業です。名前のとおり海底に沿って網を曳き、ヒラメ・カレイ・エビ・カニ・タコなどの「底魚（そこうお）」を漁獲します。

貝けた網漁業

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎

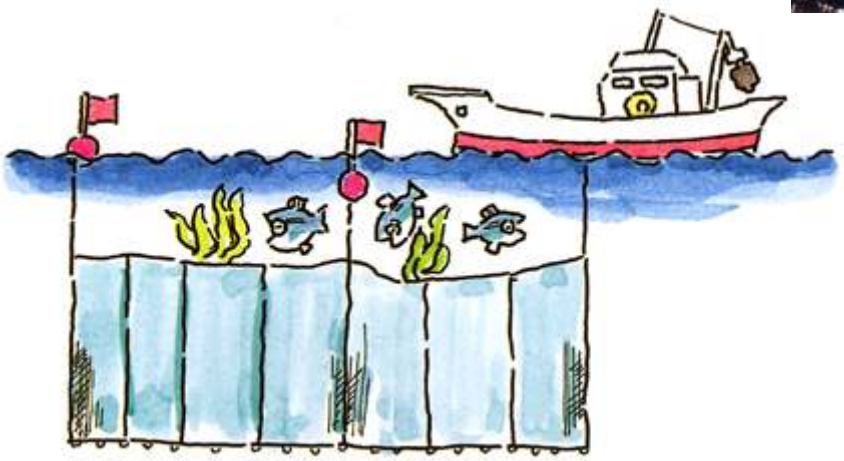
　鋼鉄のツメが付いた「貝けた（マンガ）」という漁具を曳いて、ハマグリやホッキガイなどの二枚貝を漁獲します。



刺網漁業

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	○	○	○	○	○	◎	◎	◎			○	○

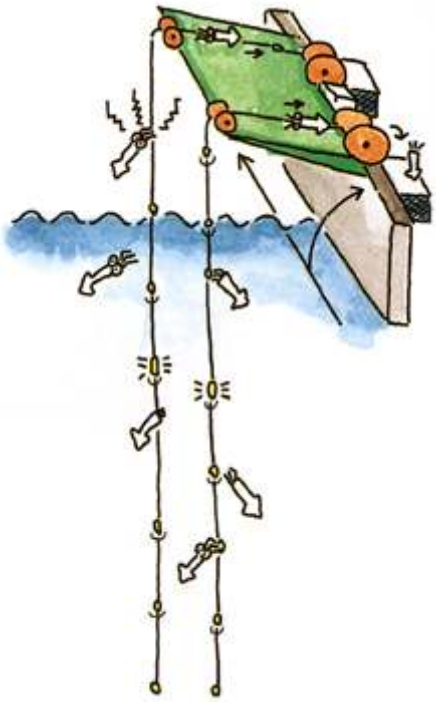
ナイロン製の透明な網を使い、泳いでくる魚を網にからませて漁獲する漁業です。刺網には、潮の流れに乗せてスズキ・イナダを漁獲する「流し刺網漁業」と、網を固定してヒラメ・カレイ・アイナメ・コチなどを漁獲する「固定式刺網」があります。とる魚や時期、場所により網目の大きさを変えます。１人でも操業できます。



イカ釣り漁業

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
							○	◎	○	○	◎	○

夜、集魚灯でイカ（アカイカ・スルメイカ）を集め、イカツノと呼ばれる擬餌針で釣り上げる漁業です。昔は手釣りで行われていましたが、昭和51年ごろに自動イカ釣り機が導入されました。１人でも操業できます。



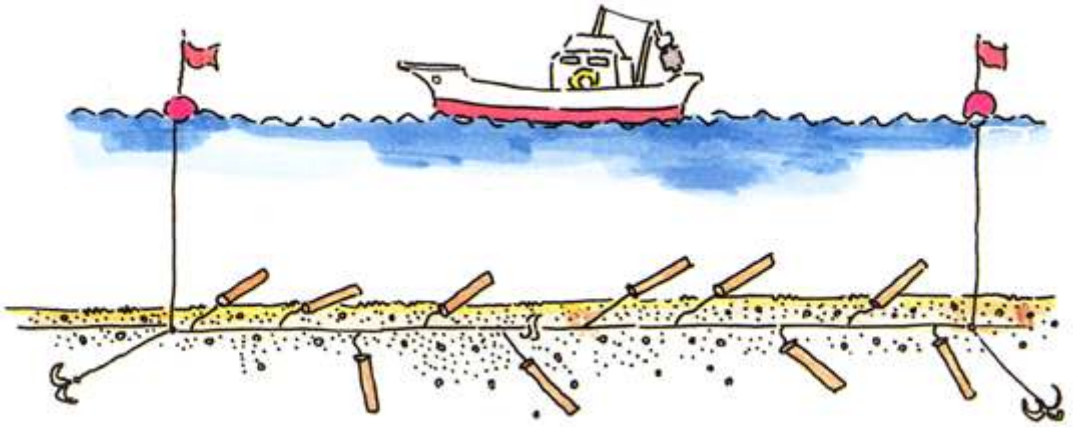
イカツノ

せん･かご･つぼ漁業

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	○	○					◎	◎	○	○	◎	◎

アナゴせん

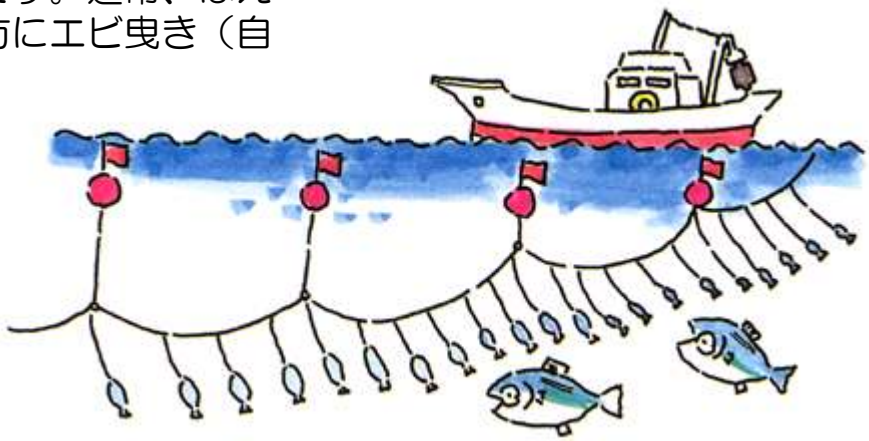
せん漁業は、「せん」と呼ばれる筒状の漁具でアナゴを漁獲する漁業です。アナゴが狭くて暗い場所を好む習性を利用したもので、魚体を傷つけずに漁獲することができます。かご漁業・つぼ漁業も、せん漁業と同じような仕掛けで設置されますが、それぞれ使う漁具が違うことで区別されています。かごは巻き貝を、つぼはタコを対象としています。



はえ縄漁業

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

はえ縄は、みき縄に多くの枝針を付けて行う、釣り漁業の発展型とも言える漁業で、スズキ・タイ・ソイ・ヒラメ・タラなどを漁獲します。１回の操業に使用する針の数は700～1,000本と多いため、餌となる活きエビの確保は重要な課題です。通常、はえ縄の操業を終えた後、夕方にエビ曳き（自家用餌料板曳き網）を行って餌を確保します。１人でも操業できます。



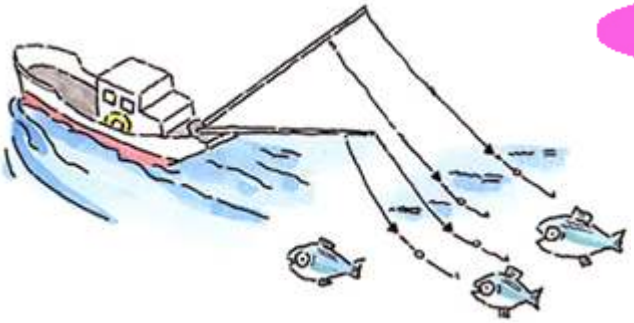
釣り漁業

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

１人乗り３トン未満船が主に操業しています。釣り漁業には、一本釣り・曳き釣り・タル流しなどがあります。操業するときは、時間や対象魚、海況、水の色によって漁具の仕立てや餌を変えます。

一本釣り

一本釣りの対象となる魚は、スズキ（夏）・ヒラメ・ソイ・アイナメ（春～秋）です。また、８～９月に、本県沖を南下回遊する２～３kgに育ったカツオを散水と活きイワシのまき餌でかく乱して釣る「あてんぼう」というダイナミックな釣りも一本釣りに分類されます。

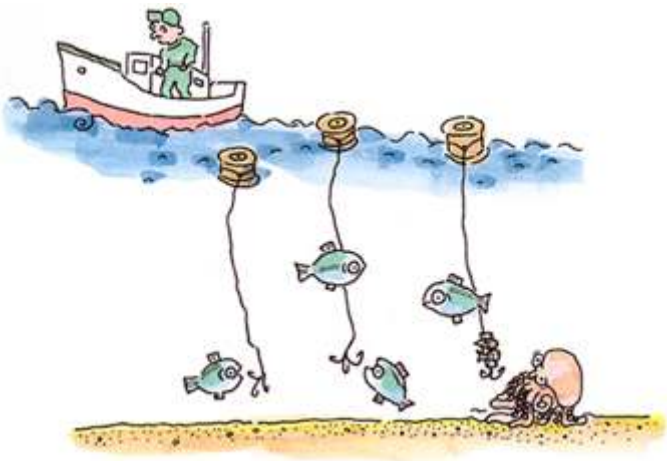


曳き釣り

曳き釣りは、船尾から左右に出した竿に複数の漁具を取り付け、海面を曳いたり、水深を調整しながら曳き回して魚を釣る漁業です。主な対象魚は、カツオ（春と秋）・メジ（クロマグロの幼魚，秋）・イナダ（ブリの幼魚，夏～秋）・スズキ・ヒラメ（冬）・タチウオ（秋）などです。

タル流し

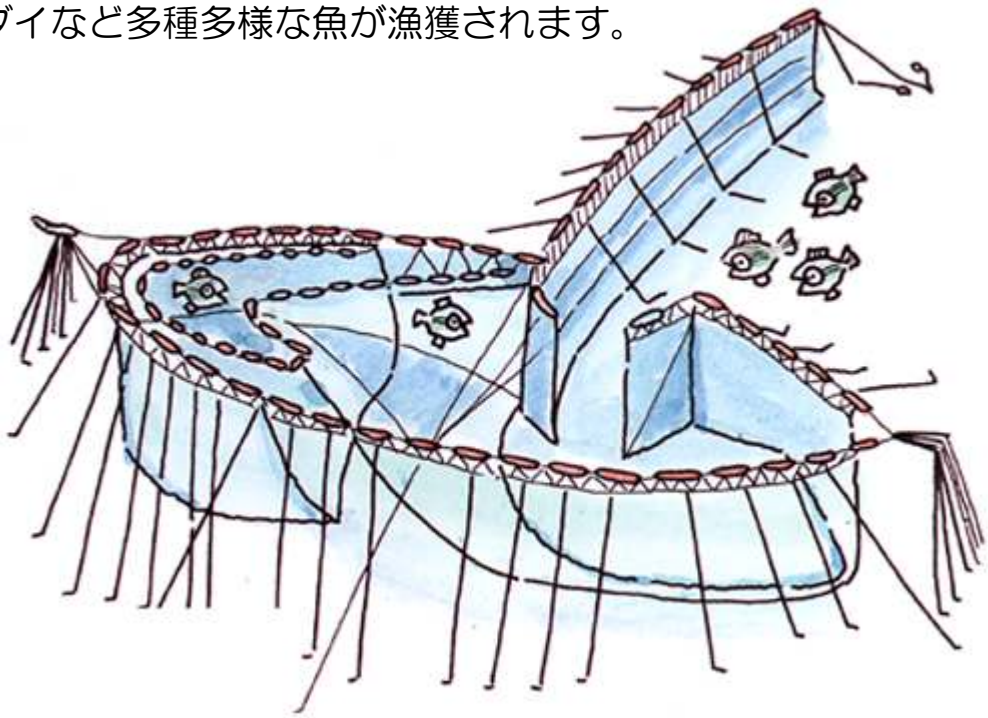
釣り針をつり下げたタルを海面に浮かべ、そのタルが波で動くことにより釣り餌が動き、魚を誘って釣る漁業です。主にタコ（秋～冬）・ソイ・アイナメ（周年）などを漁獲します。



定置網

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

　岸から沖に向けて垣根のような網（垣網）を設置し、魚を垣網づたいに泳がせてその先に設置した囲い網に誘い込み、漁獲する漁業です。イワシ・サバ・イナダ・アジ・スズキ・ヒラメ・マダイなど多種多様な魚が漁獲されます。



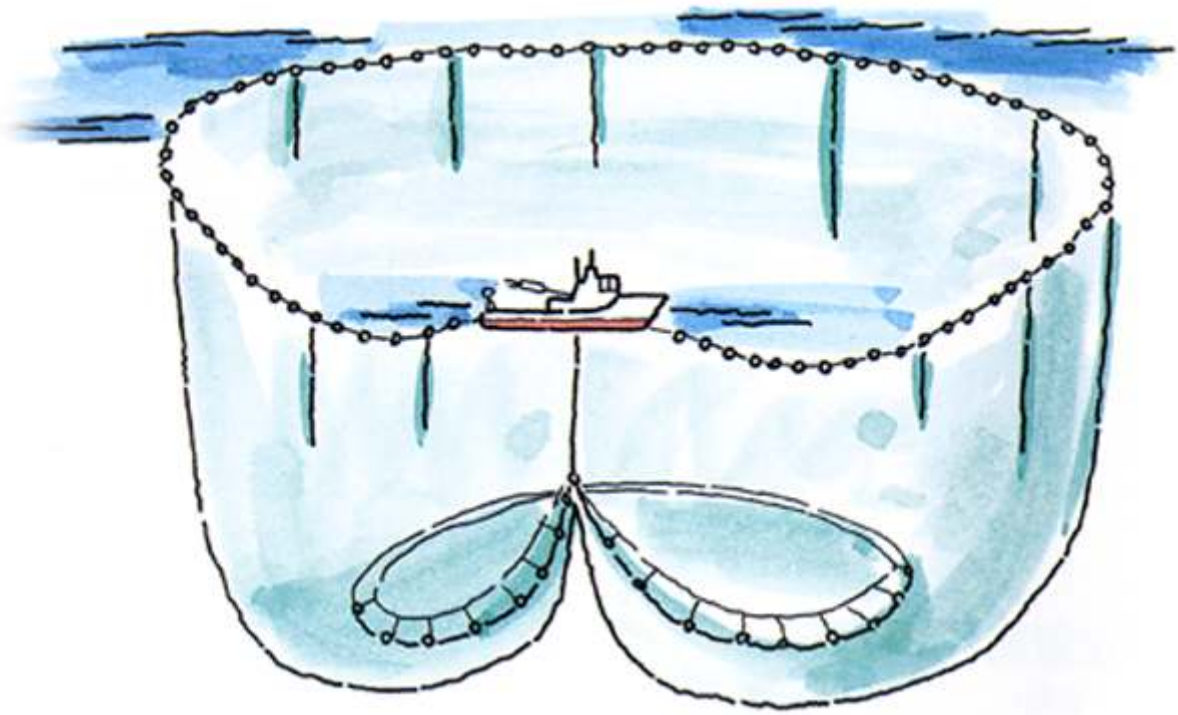
　これまで紹介した漁業以外にも、アワビをとる採貝漁業やワカメなどの海藻をとる採藻漁業が、北部地域の岩礁海岸を中心に行われています。

＜ 沖合漁業 ＞

本県で行われている沖合漁業には、まき網漁業・サンマ棒受網漁業・沖合底曳き網漁業などがあります。
いずれの漁業も、大がかりな漁法であるため、これらの漁業が本県の漁業生産に果たす役割は重要で、県全体の漁業生産量・生産金額の中に大きな割合を占めています。

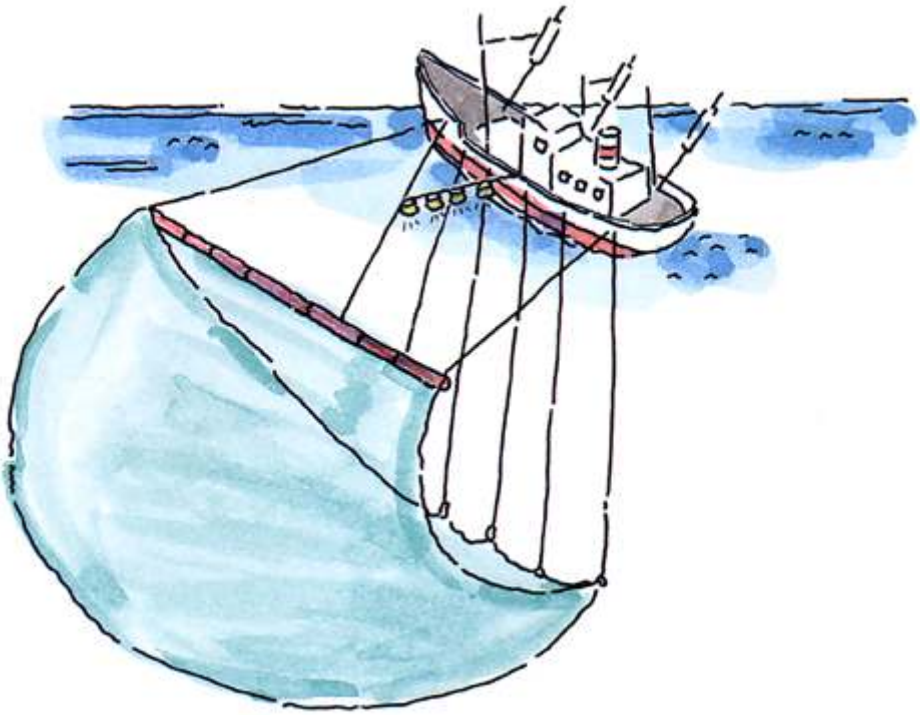
まき網漁業

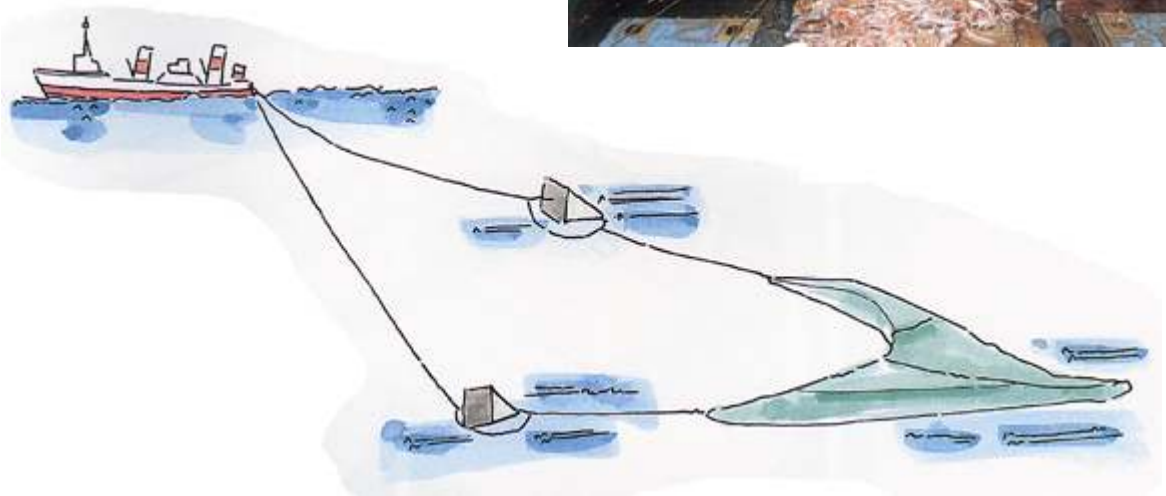
まき網漁業には、15トン未満の船で行われる中小型まき網漁業と、より大きな船による大中型まき網漁業があります。特に、大中型まき網漁業による生産量は、本県全体の生産量に占める割合がもっとも多く、主要な漁業となっています。
漁獲対象となるのは、マイワシ・カタクチイワシ・アジ・サバなどの群れを形成する魚種です。大きな網で群れを囲い込み、漁獲します。



サンマ棒受網漁業

８月中旬から11月下旬にかけて太平洋を南下してくるサンマを漁獲するのが、この漁業です。夜、集魚灯を使って魚を集め、大きな網ですくうようにして漁獲します。



沖合底曳き網漁業

沿岸漁業で行われている底曳き網漁業のスケールを大きくしたもので、主に水深40m以上の海域で操業し、カレイ・タラ・メヌケ・イカ・カニ・エビなどを漁獲します。